

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）  
 A：十分達成できている  
 B：おおむね達成できている  
 C：やや不十分である  
 D：不十分である

学校名	有田町立大山小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの結果で、「確かな学力」の項目において肯定的な回答が85%だったものの、CRT学力検査の結果が昨年度並みか昨年度より低くなった学年もあった。今後は、授業づくりや学力向上に関する研修を行うと共に、教員相互に学び合う機会を増やし、指導力向上に努めたい。</li> <li>「開かれた学校づくり」においては、今年度も大山小校区に根付いているコミュニティースクールの皆様のご協力のもと、様々な取組を行うことができた。9割の児童が「地域の学びが深まった」と感じているところから今後も地域に学ぶ教育のさらなる推進に努めたい。</li> <li>職員の働き方改革については、生成AIを適切に活用し、さらに業務の効率化を図りたい。今後は、業務改善により生み出された余白の時間の有効活用に取り組みたい。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「おいに学び やさしく まっすぐ伸びる」大山っ子の育成</p> <p>(知) 学ぶことが楽しくなる学校</p> <p>(徳) 思いやりにあふれ、居心地の良さを感じる学校</p> <p>(体) 健康で元気いっぱいの学校</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>1 学力の向上…①学ぶ過程を大切にする授業づくりの推進(校内研修の充実、職員の研修推進)②学習習慣の徹底(学習道具の約束、効果的なタブレットの推進)③家庭学習の充実(家庭学習の手引きの活用)④基礎基本の定着(個別指導と読書の充実、有田っ子スタイル)</p> <p>2 特別支援教育の充実…①特別支援教育の知識の深化(校内研修の推進、自立活動の充実)②教育相談の充実(生徒指導連絡会の推進、個別相談の充実、早期のケース会議)③人権・同和教育の推進(縦割り遊びと縦割り掃除)</p> <p>3 家庭と地域の活性化…①コミュニティースクールの活用(外部人材(地域の人)、地域資源(地域のこと、もの)の活用、学校評価によるPDCAサイクルの充実)、積極的な情報発信(学校だより、ホームページ、はなまる連絡帳による情報発信、計画的な授業参観と学校行事の実施、公開授業)</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	○自ら学び続ける児童の育成と読解力向上を目指した授業の創造	○CRTテストの観点の「思考」で全国比100以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元計画を明確にし、学びの過程を見える化する場面の設定。</li> <li>大山タイムを活用し、新しい文章に触れ、学習した国語の力を使う機会を増やす。</li> </ul>				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分と他人との違いを認め、「自分や友達の良さを見つけることができる」と感じることができる児童が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の時間において「考え、議論する道徳」の実践を継続する。</li> <li>毎週、「気になる子」の情報交換を行うことで、全職員での共通理解を図る。</li> <li>QUの結果を分析し、個に応じた指導を充実させる。</li> </ul>				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○日頃から児童一人一人の実態を把握し、管理職・担任・保護者・SC・SSWとの連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月「心のアンケート」を実施し、いじめ等の早期発見・予防に努める。</li> <li>職員連絡会等で、学級や学年、気になる児童の実態把握、共通理解に努め、必要に応じて支援会議やケース会議を行い、早期対応に努める。</li> <li>学期ごとに教育相談だよりを配布し、SCやSSWを周知する。</li> <li>SCやSSWに定期的に教室巡回をもらい、児童の様子の変化の早期発見やカウンセリング等の早期対応につなげる。</li> </ul>				
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「あなたのまわりの人はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの良い所を伝え合う活動を通して、自己肯定感を高める。</li> <li>学級で行事や学期ごとに短期目標を設定したり、各学年に応じて自身の成長を振り返ったり、目標を立てたりすることで、目標に向かう心情を育てる。</li> </ul>				

●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒が70%以上 ②本校生徒指導重点目標「挨拶」「たてわり掃除と集団登校」「学校のきまりを遵守」ができた児童80%以上 ③食に関するアンケートで「健康に良い食事をしている」と回答する児童が90%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。なるように、交通安全教室を設けての指導や動画の視聴を行う ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	②④生活のめあての内容を毎月の重点指導内容に位置づけ、望ましくない行動については随時指導を行い良好目標については称賛する。 ・定期的に縦割り遊びを行い、異学年で運動を含んだ遊びで体を動かす。 ・「なわとびタイム」や「マラソンタイム」を設定し、カードを与えることで運動習慣や目的意識を高める。 ・生活めあての内容を、毎月の重点指導内容に位置づけたり、良好目標については随時承認・賞賛したりする。 ・給食時間に食育に関する放送を行うとともに、「おにぎり弁当の日」を設定し、家族で「食」を考える機会を設ける。 ・交通事故や生活事故が減るように、交通安全教室を実施したり、交通安全啓発の動画を視聴させたり、校内での歩行ルールを設定し、順守を徹底させたりする。			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・放課後や空き時間の有効活用を促進し、超過勤務の削減とワークライフバランスの充実に努める。 ・稼業月時間外勤務40時間以内を実施する。 ・職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上を促進			
	○校務DXを推進し、クラウド型プラットフォーム(Google Classroom)を活用した情報共有の高度化を図る。	○従来の紙媒体による回覧や対面周知を見直し、デジタル化することで迅速な校務運営体制づくりを行う。	・クラウド型プラットフォームを活用した回覧や周知で、会議時間の短縮および校務運営の効率化を図る。			
●特別支援教育の充実	個に応じた支援体制の充実と教員の専門性、認識の向上	「校内体制の中で、配慮が必要な児童について個に応じた支援を行うことができた」と回答する職員80パーセント以上を目指す	・特別支援教育についての研修会の実施 ・児童の支援についての情報共有 ・校内支援会議の開催と校内体制での支援 ・個の課題に合った自立活動の実施			

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○「開かれた学校」づくりの推進	○保護者・地域との連携と人的・物的資源の活用	○「学校は、よく情報を伝え保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者85% ○「地域の学びがとても深まった」と回答する児童80%以上	・学校・学級・保健などの通信を定期的に発行する。 ・連絡アプリを活用したタイムリーな情報の発信をする。(感染症対策・生徒指導関連等) ・コミュニティ・スクールの特性を生かし、学校運営評議委員と連携しながら地域学習や体験活動を充実させる。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---